

# 横暖ルーフα

工 法

新築

下 地

耐水合板

構造

木造

## 6) 大棟部

## ① 棟包み210

●棟包み210の適用勾配と栈木位置はP226をご参照ください。

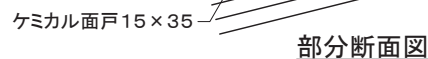
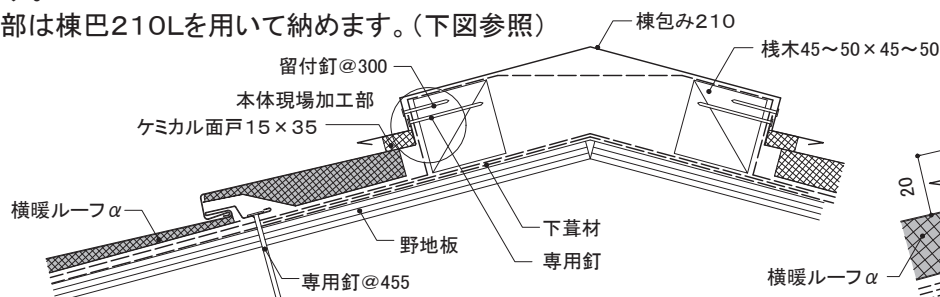
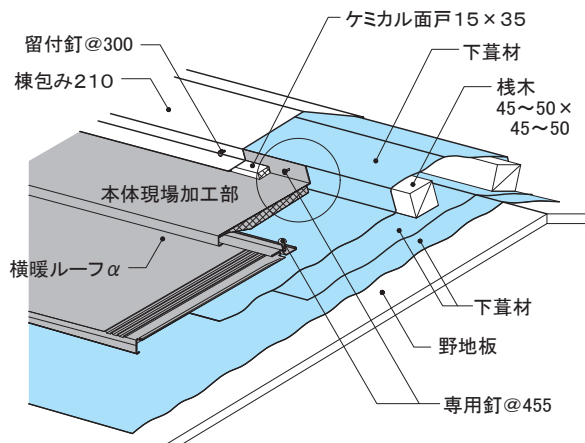
●野地板の上に下葦材を張ります。

●棟部に栈木45～50mm×45～50mmを外側2ヶ所に取り付け、栈木を包むように下葦材を増し張りします。

※棟包み210に乗らないでください。工具・部材も置かないでください。棟包み210が変形するおそれがあります。

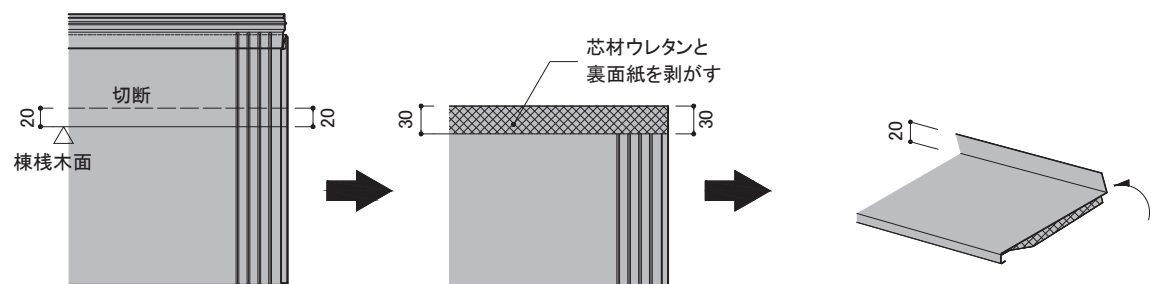
●棟部を図のように加工した横暖ルーフα本体を栈木に施工し、本体の図の位置にケミカル面戸15×35を貼り付け、棟包み210をかぶせます。棟包み210は、留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、300mm以下の間隔で栈木に留め付けます。

●けらば部は棟巴210Lを用いて納めます。(下図参照)



### ■施工ポイント・本体現場加工図

●横暖ルーフα本体の大棟部分は図のように加工します。



①棟栈木面から

図の寸法で切断します。

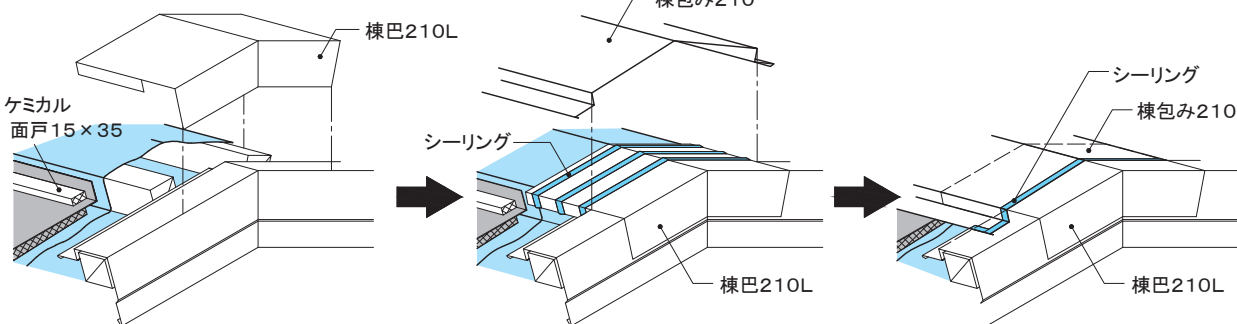
②端部から30mmの位置まで芯材の

ウレタンと裏面紙を剥がします。

③端部から20mmの位置を

折り曲げて立ち上げます。

### ■けらば納め: けらば包み60の例



①棟巴210Lを屋根勾配に合わせてけらば包み60と栈木の上にかぶせます。

②重ね代部分にシーリングでビードを3本作り棟包み210をかぶせます。

③棟包み210、棟巴210L、けらば包み60が交わる部分に捨てシーリングを施工します。